

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 4月 2日

研究・研修課題名	「細胞治療認定管理師」資格の取得
研究・研修組織名（所属）	輸血部
研究・研修責任者名（所属）	石原智子（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

① 目的（800字程度）

近年、細胞や組織を採取し未調製または調製後にそれらを必要としている患者に輸注する細胞治療が盛んに行われている。細胞治療を行うに当たり、細胞の調製過程および最終産物の品質を評価することは非常に重要である。細胞調整に精通し、安全で品質管理された細胞治療が行える細胞治療認定管理師の資格取得を目的とする。

② 方法（800字程度）

1. 第64回日本輸血・細胞治療学会総会（平成28年4月28～30日、京都市）に参加し、申請に必要な単位を取得する。
2. 日本輸血・細胞治療学会に申請書類を提出し、資格審査の結果、必要な条件が満たされていれば細胞治療認定管理師として認定される。
申請条件としては、医療系の国家資格を有すること、日本輸血・細胞治療学会または日本造血細胞移植学会会員であること、過去5年間に日本輸血・細胞治療学会または日本造血細胞移植学会等の主催、又は共催した学会、講演会および研修会への参加・発表または細胞治療に関する著書等の活動歴等、申請に必要な資格審査基準単位（50単位）を取得していること、造血細胞移植・再生医療・免疫細胞治療に係る細胞調製実績が通算2年以上且つ10件以上あり、それらの証明書と推薦書が提出できることが挙げられる。

③ 成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

1. 第64回日本輸血・細胞治療学会総会（平成28年4月28～30日、京都市）に参加し、申請に必要な単位を取得した。
日本輸血・細胞治療学会は輸血医学・細胞治療学の進歩及び安全で適切な輸血医療・細胞治療を推進すると共に国民の保健衛生の向上に貢献することを目的とした学会で、今回参加した第64回日本輸血・細胞治療学会総会は、「輸血から細胞治療への新展開」をテーマに掲げ、輸血や細胞治療・再生治療に関する様々な講演やセミナー、発表など多彩なプログラムが準備されており、多くの情報や最先端の動向を知るとても良い機会となった。学会に参加したことでの成果を報告する。

まず強く印象に残っていることが、iPS細胞の発見でノーベル医学・生理学賞を受賞された山中伸弥先生の講演「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」を聴講できたことである。講演では、山中先生自身が歩んできた道とiPS細胞の発見に至る経緯、今後の展望についてなど幅広い内容を分かりやすくユーモアを交えて話されていた。iPS細胞の応用として、輸血の分野においては感染症や献血不足で問題となっている血小板製剤への適応や再生医療用iPS細胞ストック、iPS細胞を用いた個別疾患研究など興味深い情報ばかりだった。

次に、細胞治療認定管理師制度についての講演を聴き、「再生医療安全確保法」や「医薬品医療機器法」など法律について勉強することができた。また、当院においても導入しているクリオプレシピテートに関する発表を聴くことができた。クリオプレシピテートは大量出血時の低フィブリノゲン血症に対して院内で作製している製剤であるが、作製方法と品質管理の統一化が課題となっている。その課題に対するヒントに繋がるような発表があったので是非参考にしたいと感じた。他にも、末梢血幹細胞採取や血小板減少症に対する輸血療法、細胞治療などについての講演や発表を聴くことができ、大変勉強になった。

2. 日本輸血・細胞治療学会に、これまで取得した単位数と細胞調整実績、その他必要書類を提出し、申請を行った。細胞調製実績としては、これまで輸血部の業務で行ってきた末梢血幹細胞調製・凍結処理やCD34陽性細胞検査などを記載した。

資格審査の結果、細胞治療認定管理師として認定された。これまでの業務実績や今回習得した知識を生かして資格取得したことにより、造血細胞移植や再生医療、免疫細胞治療等において、細胞・組織を用いた医療に必要な細胞調製ならびに検査の質が担保されていくと考えられる。今後安全で品質管理された細胞治療を行うための推進役として活躍できるよう努めていきたい。

*細胞治療認定管理師制度協議会

細胞治療認定管理師認定証 受領【2016年12月28日】